

KAITEKI Value for Tomorrow

株式会社三菱ケミカルホールディングス会社説明会 (証券コード：4188)

2020年8月開催

株式会社三菱ケミカルホールディングス
取締役 執行役常務 最高財務責任者 **伊達 英文**



本日の内容

1. 私たち、三菱ケミカルホールディングスは総合化学会社です
 - 1-1 会社概要
 - 1-2 事業領域と業績
2. 三菱ケミカルホールディングスのこれから
 - 2-1 中期経営計画APTSIS20と進捗
 - 2-2 成長戦略
3. KAITEKI経営の深化
4. KAITEKI Vision 30

1. 私たち

三菱ケミカルホールディングスは
総合化学会社です

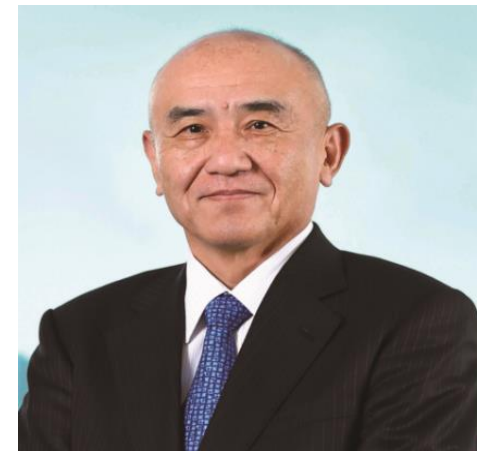
1-1 会社概要

1-2 事業領域と業績

1-1. 会社概要

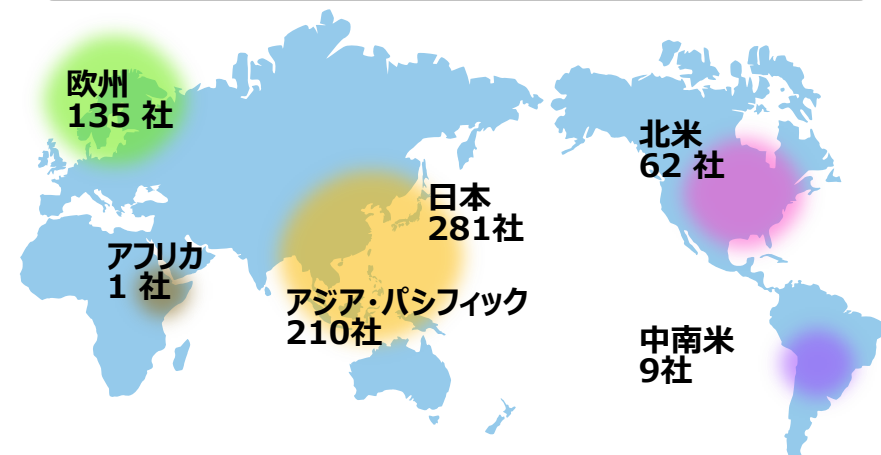
資本金	500 億円
連結売上収益 (2020年3月期実績)	3兆5,805億円
業界内ポジション	国内1位、海外6位
Source: Thomson Reuters (FORTUNE Global 500)による各社直近期 Data(2019年)	
連結コア営業利益※ (2020年3月期実績)	1,948 億円
※コア営業利益 IFRSの営業利益から非経常的な要因により発生した損益を除いた経常的な利益	
連結従業員数 (2020年3月期実績)	69,609人
関係会社数 (2020年3月期実績)	698社

海外売上高比率：42.9%
(2020年3月期実績)



代表執行役社長 越智 仁

グローバルネットワーク



(株)三菱ケミカルホールディングス (MCHC)

2005年10月～

事業分野：  機能商品  素材  ヘルスケア

100%  

三菱ケミカル(株)

2017年4月*～

連結売上収益:2.3兆円
従業員数：4.0万人

機能商品・素材 等

(*三菱化学、三菱樹脂、三菱レイヨンの3社を統合)

50.6% 

大陽日酸(株)

2014年11月～

連結売上収益:0.8兆円
従業員数：1.9万人

産業ガスおよび
関連機器・装置 等

100% 

田辺三菱製薬(株)

2020年3月*～

連結売上収益:0.4兆円
従業員数：0.7万人

医療用医薬品 等

*TOB等により
持分56.4%⇒100%

100% 

**(株)生命科学
インSTITUTE**

2014年4月～

連結売上収益:
0.1兆円
従業員数:0.2万人
健康・医療ICT・
製薬支援・
次世代医療 等

 機能商品

 素材

 ヘルスケア

機能商品セグメント

機能部材

情電・ディスプレイ、高機能フィルム、
環境・生活ソリューション、
高機能成形材料

機能化学

高機能ポリマー、高機能化学、
新エネルギー

ケミカルズ セグメント

石化

炭素

MMA

産業ガス セグメント

産業ガス

ヘルスケアセグメント

医薬品

ライフサイエンス

(連結売上収益と従業員数は2019年度実績)

1-1. 会社概要

*数値は2020年4月三菱ケミカル一部事業の所管セグメント見直し後の数字

分野： 機能商 品 2019年度 実績 売上収益： 11,181 億円 ：31% (全体に占 める割合)	セグメント	機能部材	情電・ディスプレイ	光学フィルム、ディスプレイ・半導体関連製品等	
			高機能フィルム	食品包装材、工業用・医療用フィルム等	
			環境・生活ソリューション	アクアソリューション、イオン交換樹脂、アグリソリューション、インフラ資材等	
		機能化学	高機能成形材料	高機能エンジニアリングプラスチック、炭素繊維・複合材料、繊維、アルミナ繊維	
			高機能ポリマー	フェノール・ポリカーボネート、機能性樹脂、生分解性プラスチック	
			高機能化学	コーティング材料、スペシャリティケミカルズ、食品機能材、カプセル・製剤機器等	
			新エネルギー	LiB材料、LEDマテリアルズ等	
素材 18,868 億円 ：53%	ケミカルズ	MMA	石化	MMA（原料）PMMA（アクリル樹脂）等	
			炭素	石化原料および誘導品、ポリオレフィン等	
			産業ガス	コークス、カーボンブラック、合成ゴム、炭素材	
				産業ガス、産業ガス関連機器・装置等	
ヘルスケア 3,931億 円 ：11%	ヘルスケア	医療用医薬品		医療用医薬品等	
		ライフサイエンス		医療用原薬・中間体等	

1. 私たち

**三菱ケミカルホールディングスは
総合化学会社です**

1-1 会社概要

1-2 事業領域と業績

■ 米中貿易摩擦及び新型コロナウイルス感染症の影響による世界経済の急激な減速により減益

	2015年度 (日本基準)	2016年度 (IFRS基準)	2017年度 (IFRS基準)	2018年度 (IFRS基準)	2019年度 (IFRS基準)
売上高	3.8兆円	3.4兆円	3.7兆円	3.9兆円	3.6兆円
コア営業利益	2,800億円	3,075億円	3,805億円	3,172億円	1,948億円
親会社の所有者に帰属する当期純利益	464億円	1,563億円	2,118億円	1,695億円	541億円

主な M&Aの実績

日本合成(2016年完全
子会社化)

ニューロダーム
買収(2017年10月)

欧州等産業ガス
事業買収(2018
年12月)

田辺三菱製薬
(2020年完全子会
社化)

主な 構造改革

テレフタル酸インド・
中国事業譲渡(2016
年10月)

粉碎トナー事業終
了決定(2017年
12月)

欧州アクリル樹
脂シート事業譲
渡(2018年9月)

LSIメディエンス事業
移管(2019年8月)
記録メディア事業売
却(2019年12月)

2020年度
迄に売上規
模3,000億
円程度の構
造改革を実
施

事業分野別 コア営業利益推移

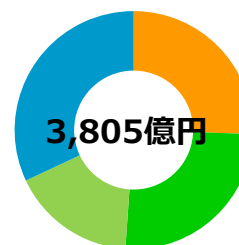
機能商品
ケミカルズ
産業ガス
ヘルスケア



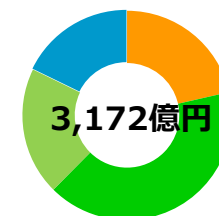
2015年度



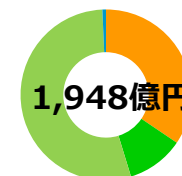
2016年度



2017年度



2018年度



2019年度

■ 当社グループ各社間におけるバイオテクノロジー、化学、及びデジタル分野の技術と人材を、機動的かつ柔軟に活用することで、社会課題を解決するソリューションを創出する



2. 三菱ケミカルホールディングスのこれから

2-1 中期経営計画*APTSIS20*と進捗

2-2 成長戦略

名 称 アプトシス **APTSIS20**

期 間 2016年～2020年度

■ 機能商品、素材、ヘルスケア分野の事業を通じて、高成長・高収益型の企業グループをめざす

高成長

- グループにおけるインテグレーション・協奏促進
- 海外事業の展開加速とマネジメント深化

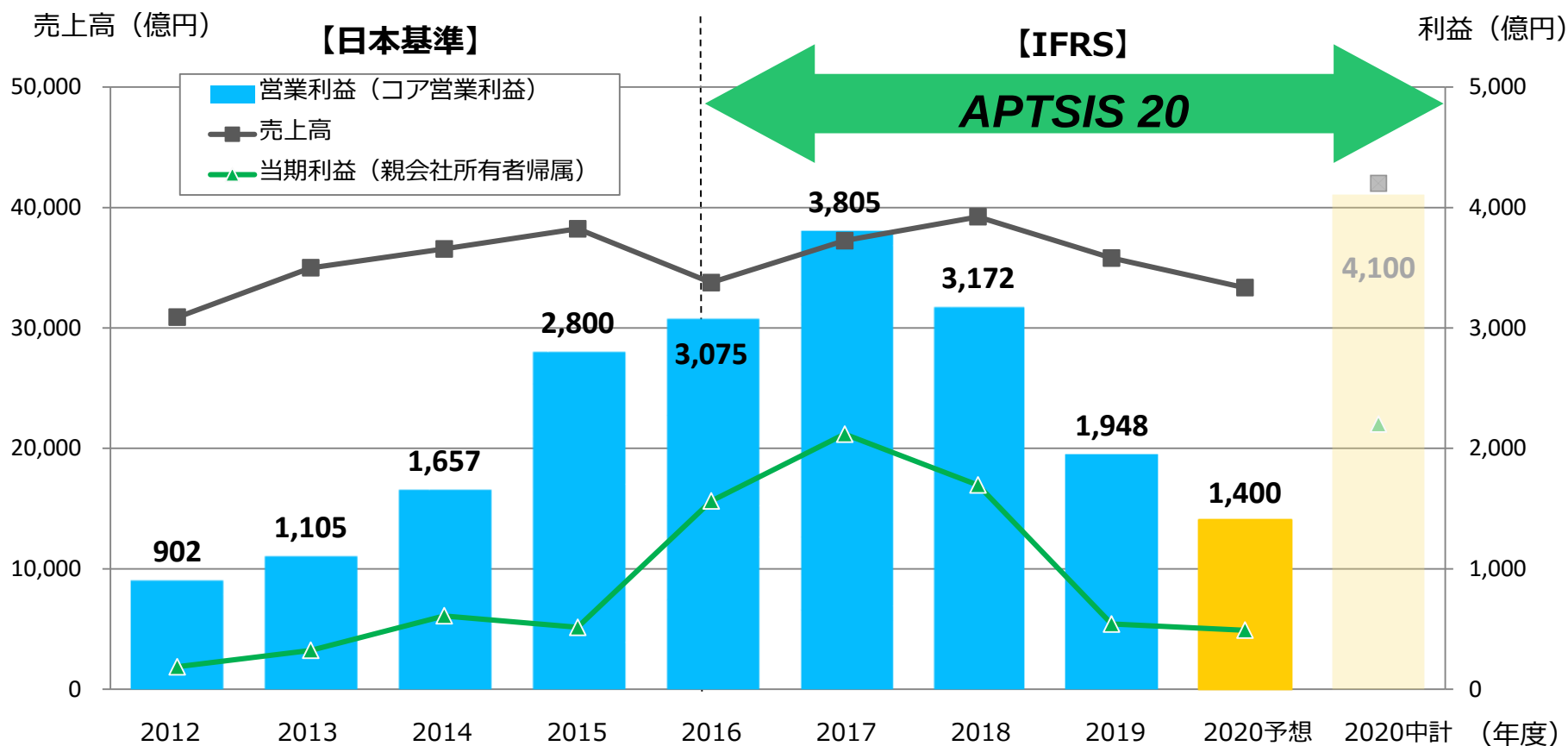
高収益

- 収益性を意識したポートフォリオ・マネジメントの強化
- コスト削減等を通じた生産性の高い企業体質の実現

財務基盤強化

2-1. 中期経営計画 APTSIS20 と進捗

- 米中貿易摩擦及び新型コロナウイルス感染症の影響による世界経済の急激な減速により減益
- APTSIS 20 最終年度目標値達成のハードルは高い



ROE(%)	2.3	3.7	6.4	4.8	15.1	17.8	12.7	4.2	—	13.0
ROS(%)	2.9	3.1	4.5	7.3	9.1	10.2	8.1	5.4	4.2	9.0
Net D/E	1.2	1.1	1.3	1.1	1.1	0.9	1.3	1.8	—	1.0

■ 産業ガス大型買収等により2019年度までに1.0兆円の投融資*を実行

*「投資活動によるキャッシュ・フロー」に分類される支出に限定、完全子会社化資金(田辺三菱製薬等)は含まず

重点投資事業領域

機能商品

新規市場

高機能フィルム

情電・ディスプレイ

⇒ インドネシアポリエステルフィルム増強

食 品 機 能 材

高機能ポリマー

⇒ 米国「ソアノール」能力増強

新規技術

高機能エンブラ

炭素繊維複合材料

機 能 化 学 品

素 材

海外展開

産 業 ガ ス

M M A

⇒ Praxair社欧州事業買収完了/Linde社米国HyCO事業買収完了

ヘルスケア

北米展開

医 療 用 医 薬 品

VLPワクチン

新規市場

再 生 医 療

その他

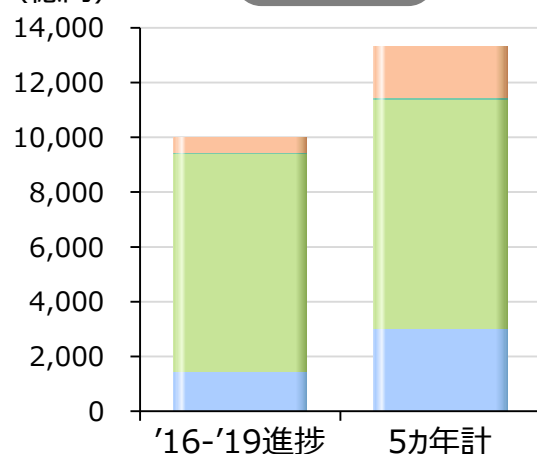
⇒ Science & Innovation Center研究棟新設

【資源配分イメージ】

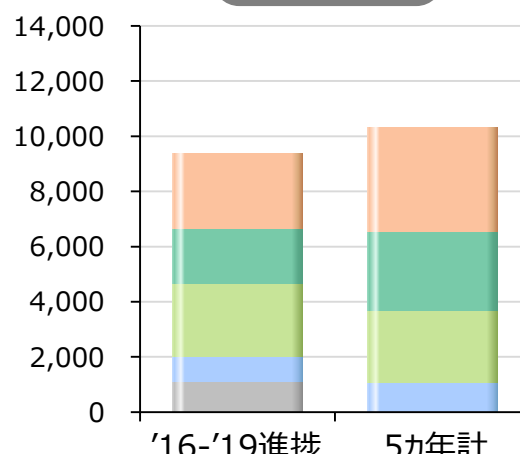
機能商品 ケミカルズ 産業ガス ヘルスケア その他

(億円)

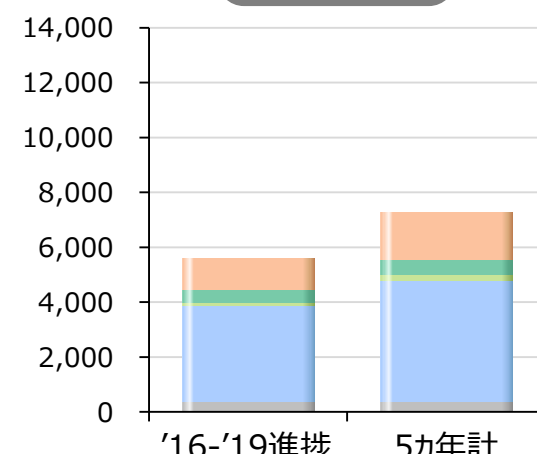
投 融 資



設備投資

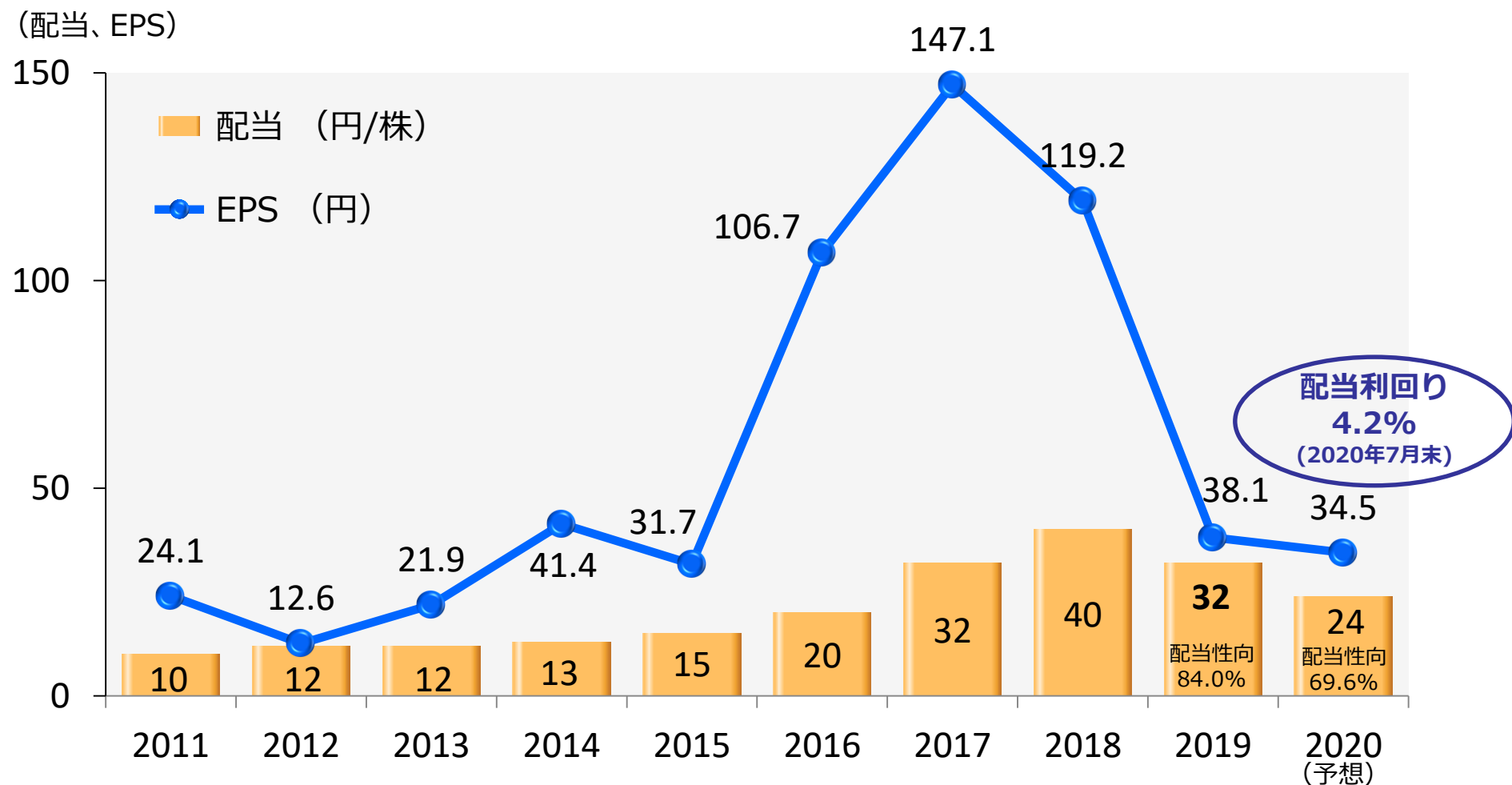


R&D費用



2-1.中期経営計画APTSIS20と進捗 株主還元

企業価値の向上を通じ、株主価値の向上をめざす
配当政策については、成長投資・財務体質の改善とのバランスを考慮し、安定的配当を実施（中期的な配当性向の目安を30%とする）



2. 三菱ケミカルホールディングスのこれから

2-1 中期経営計画*APTSIS20*と進捗

2-2 成長戦略

機能商品

ポートフォリオマネジメント強化

- ポートフォリオ改革加速
- フォーカスマーケットの成長戦略の推進

素 材

基盤強化

- MMA、産業ガス
世界シェア維持・拡大
- 石化
高機能化と生産性最適化

ヘルスケア

医療用医薬品

- パイプライン強化
- 米国展開

ライフサイエンス

- 再生医療
- 健康・医療ICT
ビジネス推進

三菱ケミカル発足による統合効果と協奏

グローバル市場へのアクセス・マーケティング力強化（リージョナルヘッドクォーター設立等）

次世代テーマの早期事業化（R&D、オープンイノベーション、DX*）

KAITEKI経営の深化、働き方改革の推進



*デジタルトランスフォーメーション

基 盤 強 化

2-2. 成長戦略 APTISIS 20のマテリアリティとフォーカス市場

■ 世界のマクロトレンドとKAITEKI経営上の優先課題

世界のマクロトレンド

気候変動の増大、水資源の汚染・不足、グローバル化と新興国の発展、地域経済圏の拡大、産業のデジタル化・モジュール化・ICT化、人口の増加、高齢化の進展、医療費の増大、再生医療・個別化医療の進展

KAITEKI実現に向けたマテリアリティを選定

マテリアリティ

資源・エネルギーの効率的利用
健康維持への貢献

気候変動への対応
疾病治療への貢献

清浄な水資源の確保
食料・農業問題への対応

フォーカス市場(成長分野)

IT・エレクトロニクスディスプレイ

自動車・航空機(モビリティ)

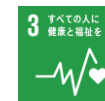
環境・エネルギー



パッケージング・ラベル・フィルム

メディカル・フード・バイオ

ヘルスケア



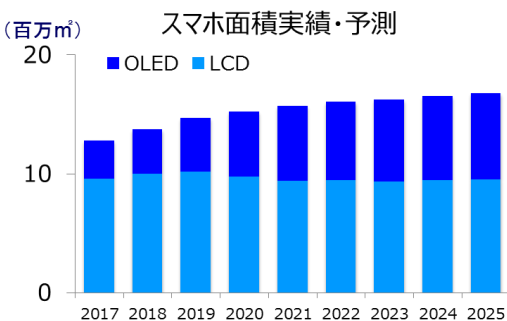
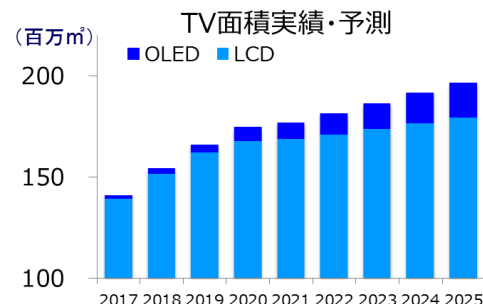
光学フィルム

- 液晶ディスプレイ（LCD）向けフィルムの競争優位性を堅持することに加え、有機EL（OLED）向け部材の市場増大を確実に取り込む



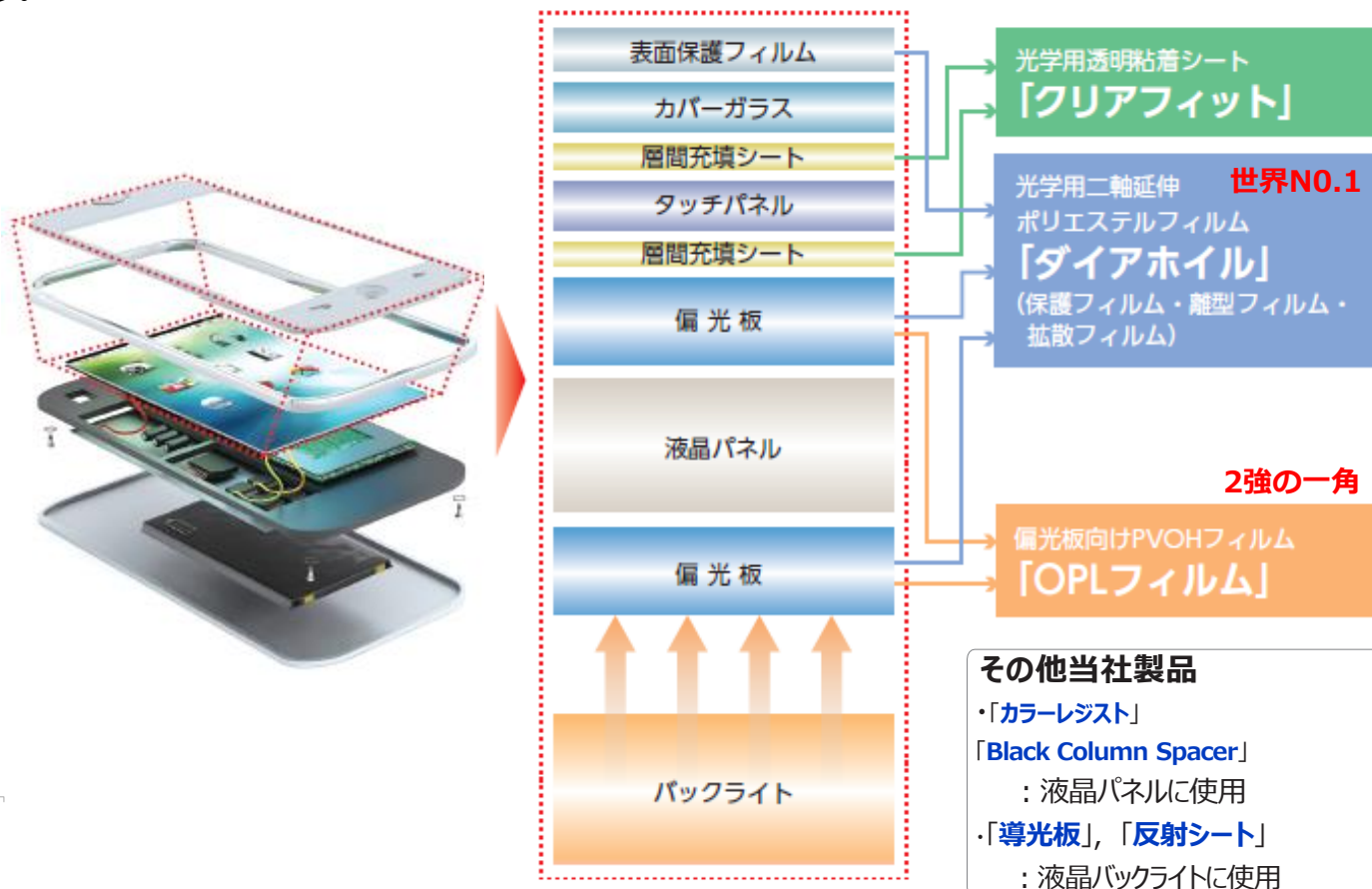
世界のディスプレイ市場

ディスプレイ市場は、今後も堅調に推移。
スマホ向けはOLEDが伸長



出典: HIS Markit

スマートフォンの構成例

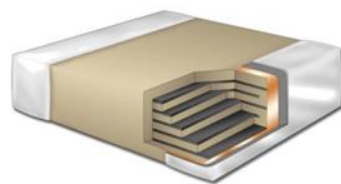
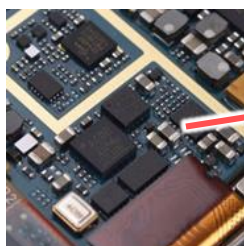


半導体関連事業

- 高品質ポリエステルフィルムを通信向け電子部材へ展開
- 耐久性を活かした車載用への展開も視野



積層セラミックコンデンサ（MLCC）



縦横0.2~1.0mm長

デバイスの電気回路を駆動させる上で重要な部品
スマートフォン 1 台に約700個以上使用されている

MLCCの
需要予測

自動運転システム発展やIoTの普及により増加中



高機能・高品質ポリエステルフィルム

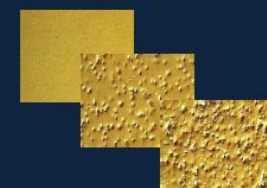
MLCC生産時の工程材料として、
ポリエステルフィルムを使用

コンデンサーの容量・性能を向上させるために
ポリエステルフィルムの表面機能への要求あり

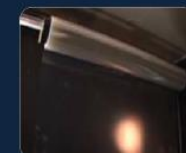
表面の平坦性

傷・異物の低減

三菱ケミカル保有の製造技術で対応

表面
形状
設計

多様な表面形状

傷, 異物
徹底管理

炭素繊維・複合材料

- 成長領域である産業用途の自動車用途でトップポジション構築
- 炭素繊維複合材料事業の海外拠点強化



成長領域である産業用途の自動車用途でトップポジション構築



レクサス新型ラグジュアリークーペ
「LC500」「LC500h」のドアインナー及び
ラゲージインナーに採用(2017年5月)



「Audi RS 5 Coupe」のルーフ
(オプション仕様)

※画像提供：Audi社



炭素繊維複合材料事業の海外拠点強化

- 伊において欧州高級車向けCFRP用途拡大のプラットフォーム形成をめざす
- 独社買収により日米欧でのプリプレグ供給体制を確立、同社製造の高品質厚物プリプレグを伊でのプレス成形へと繋げ自動車及び航空機二次構造材向け複合材事業の拡大を加速



C.P.C.社（伊）
世界最大規模の複合材料プレス設備



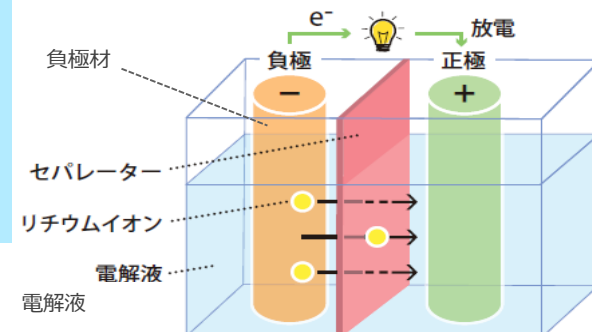
c-m-p社（独）

リチウムイオン電池材料

■ 電池材料の事業拡大と高機能化

電解液：市場拡大に対応する生産能力増強

負極材：電池性能向上へ寄与する新規製造プロセス開発



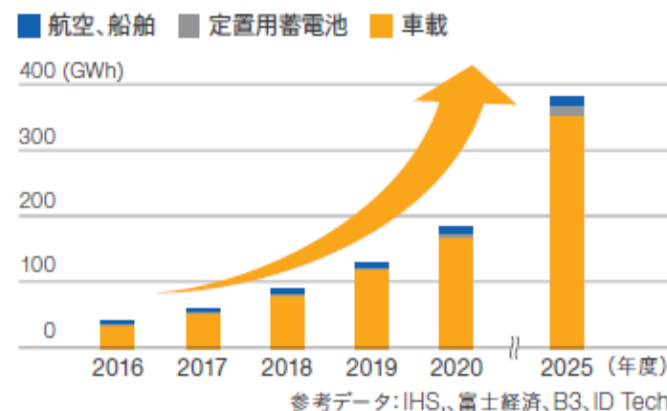
電 解 液

- 2020年10月宇部興産電解液事業統合により国内の電解液能力は10,000トン増加予定

負 極 材

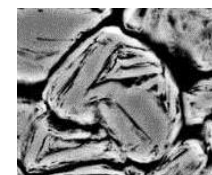
- 天然黒鉛系負極材の課題である膨張を抑制する世界初の製造プロセスを開発
- 電池長寿命化と急速充電性能向上に寄与する、同プロセスによる新規負極材を市場投入

LIB大型用途別需要見込み



新規天然黒鉛系負極材

従来負極材



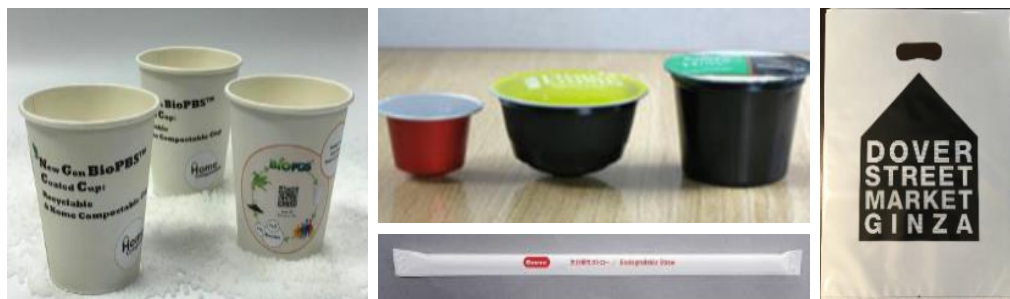
電子顕微鏡による負極材の画像

生分解性ポリマー、植物由来ポリマー

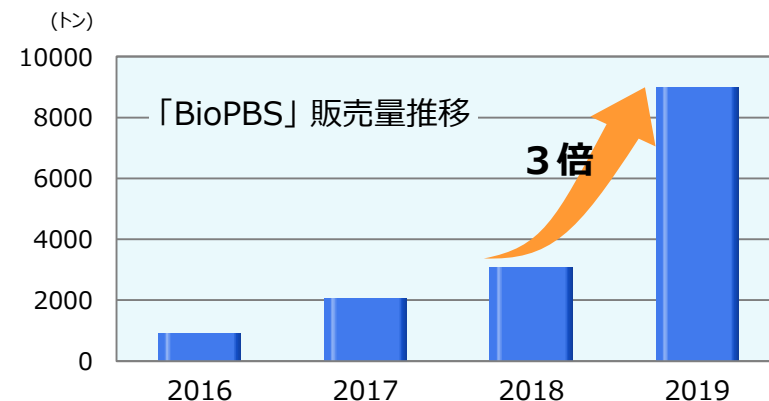
■ 生分解性プラスチックや植物由来ポリマーの研究・用途展開を加速し、循環型社会の構築やSDGsの達成に貢献

生分解性ポリマー*「BioPBS」の用途展開加速

*植物由来生分解性プラスチックで土中の微生物によって、水と二酸化炭素に分解するため、自然環境への負担が少ない。



(左) コンテストで受賞した紙コップ
(中) コーヒーカプセル、ストロー(ワシントンホテル、京急グループ施設)
(右) コム デ ギャルソン直営店で「BioPBS」製ショッピングバッグ採用



植物由来ポリマー「DURABIO」の事業強化・拡大

- イソソルバイドを主原料とする「DURABIO」の生産能力を5,000トン/年から8,000トン/年に増強
- 自動車用途に加え、Lenovo社製スマートフォンの筐体に採用、事業拡大をめざす



(左) 「DURABIO」が採用された「マツダ CX-5」
(右) Lenovo社製スマートフォン: 3D形状背面板に「DURABIO」が採用

食品包装材料

- 保存期間を長期化し消費期限切れによる廃棄を抑制
- 包装形態の多様化とバリア機能に対するニーズの高まりに対応
- 高性能バリア製品の能増と拡販：需要拡大に応じたグローバル生産・販売体制の拡充



世界

廃棄される食料の割合

約30%

重量換算

約10.3億トン

(出展：国連農業食料機関)

フードロス問題

日本

廃棄される食料の割合

約30～50%

重量換算

約1,700万トン

(出展：農林水産省)

多様な食品包装用途に対応可能な商品構成力



共押出多層フィルム

ダイアミロン®



PETボトル

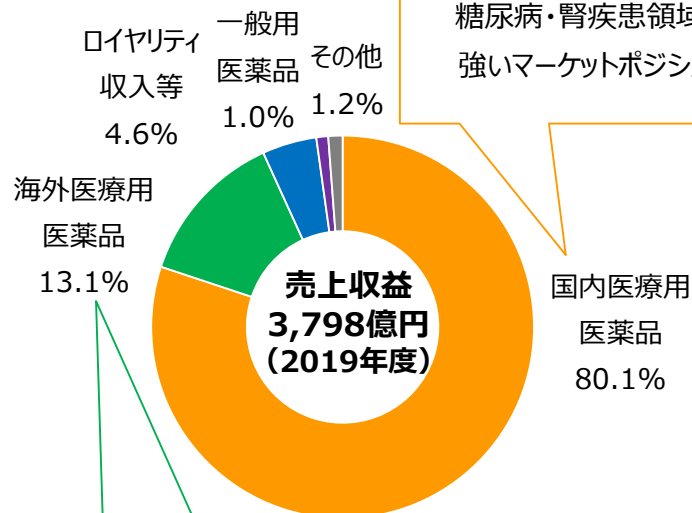
DLC（ダイヤモンドライクカーボン）蒸着
バリアボトルガスバリア性樹脂
ソアノール™

医療用医薬品

■ ALS治療薬ラジカヴァの経口剤などの自社開発品の上市等で、米欧市場の拡大をめざす

国内医療用医薬品

- 国内売上高No.6
- 免疫炎症領域及び
糖尿病・腎疾患領域での
強いマーケットポジション



海外医療用医薬品

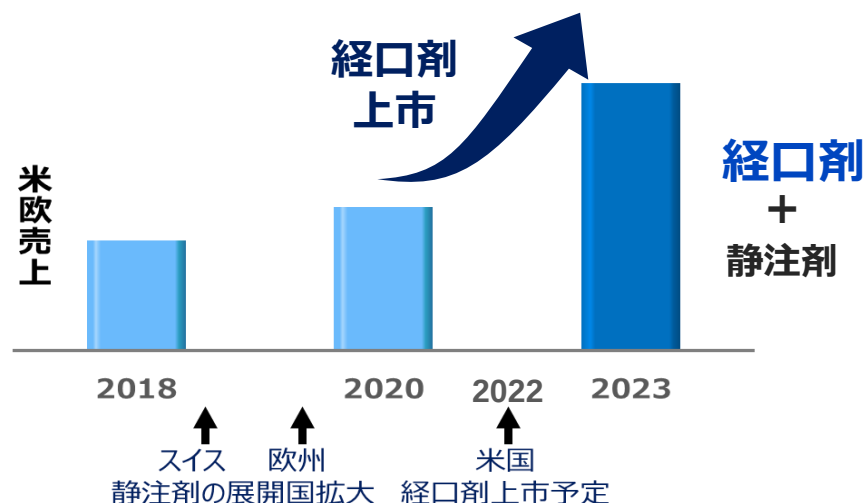
- グローバル後期臨床開発進行中
- 神経変性疾患及び
自己免疫疾患に注力

- 「ラジカヴァ」 静注剤のグローバル展開(日・韓・米・カナダ・スイス・中国・インドネシアで承認取得)
- 経口剤を2022年度に上市予定

ラジカヴァ経口剤の特徴

- ALS患者さんが服用しやすい懸濁剤の開発
- 点滴静注投与による長時間拘束の解消
- 投薬場所による制限の解消

ピーク売上収益700-1,000億円



再生医療(Muse細胞)

- 独自製造技術による細胞製造とコールドチェーンの構築でMuse細胞製品を商業化
- 2020年度の承認申請、2021年度の承認取得をめざす

2018 2019 2020 2021

臨床試験

申請

承認

販売

2018年 1月 急性心筋梗塞 : 2020/6探索的臨床試験に関する論文掲載 (安全性・有効性)

2018年 9月 脳梗塞 : 2020/4探索的臨床試験結果 (安全性・有効性)

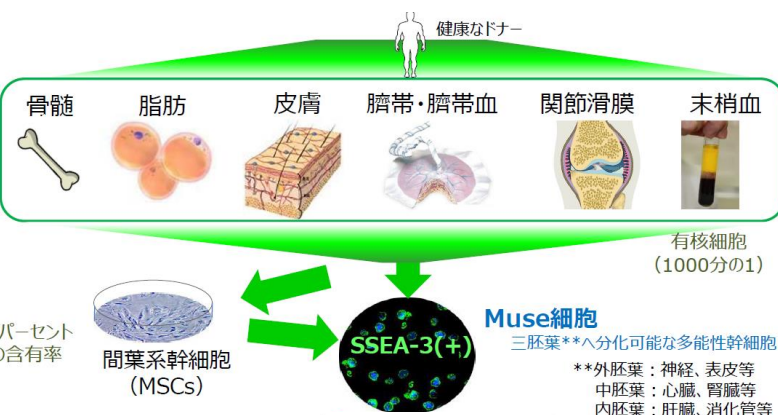
2018年12月 表皮水疱症 : 2020/7探索的臨床試験結果 (安全性・有効性)

2019年7月 脊髄損傷

独自技術

細胞培養技術

冷凍保存技術



Muse細胞を点滴投与

血管を通じて梗塞部位に集積する

組織が修復され機能が回復

傷害部位からのシグナル

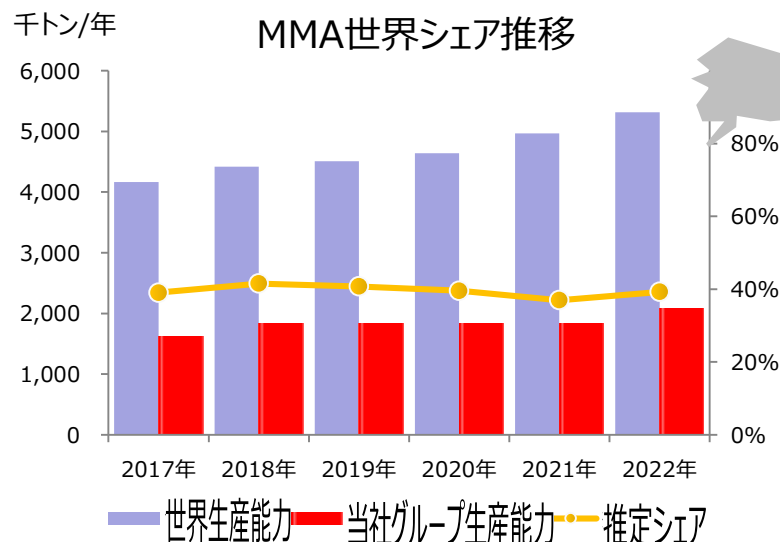
Muse細胞の特性

遊走能・自発的分化能

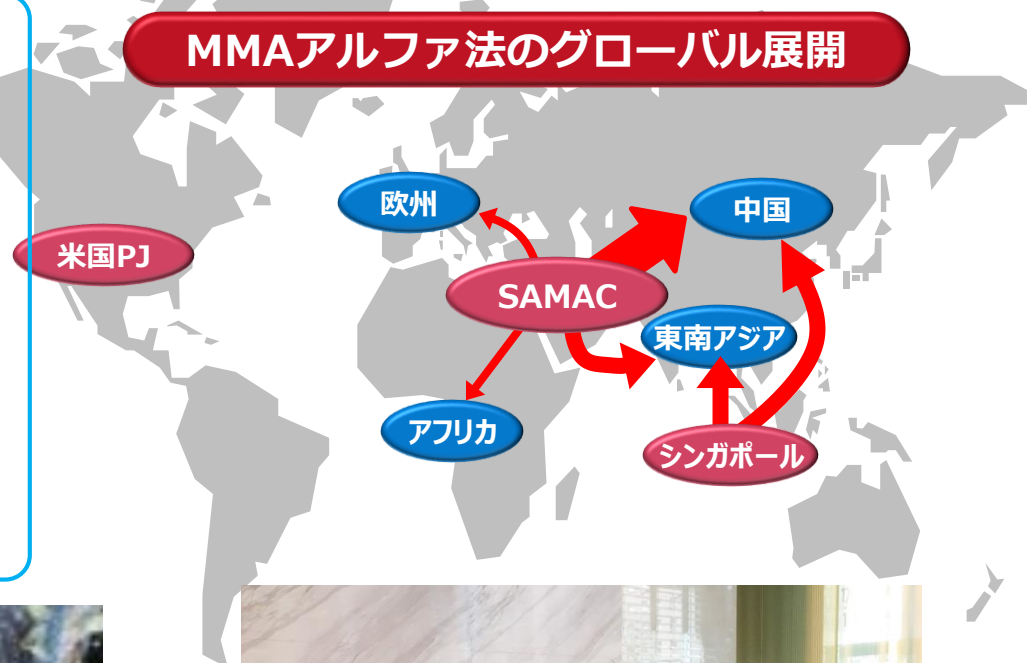
※Muse細胞：2010年に東北大学の出澤真理教授らにより発見された生体内に存在する多機能性幹細胞

MMA

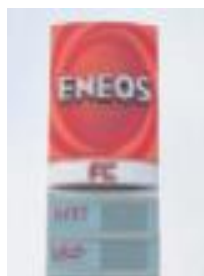
- 世界トップの約40%のシェアを誇る
- コスト競争力で優位な当社独自製造法のアルファ法を展開
- アルファ法による中東工場の本格運転など積極的なグローバル展開により、世界シェアNo.1のポジションを維持・拡大



MMAアルファ法のグローバル展開



自動車ブレーキランブ
などの工業用部材



耐候性のある
大型看板用途



透明性を活かした
水槽板用途



飛沫感染防止用パネル

産業ガス



- 産業ガス市場において国内トップの40%シェアを有する
- 新規事業エリア進出によるグローバルマーケットシェア拡大

- Linde社-Praxair社合併による欧州売却対象事業を6,358億円で獲得（2018年12月）
- Linde社の北米HyCO事業の一部並びに関連資産を約461億円で獲得（2019年2月）
- 2020年度において、産業ガスの長期経営ビジョンである『売上収益 1 兆円』を射程に捉える

取得対象事業



空気分離装置	シリンダー等充填設備	液化炭酸設備	ドライアイス設備
27	35	12	19



様々な素材や医療品等を提供する企業としての社会的責任を認識し、感染防止に役立つ製品の供給等を通じて、このコロナ危機を乗り越えることに貢献してまいります。

水溶性ランドリーバッグ

水溶性フィルム『ハイセロン™』のランドリーバッグは、使用済みのシーツや衣類に触れることなく洗濯することが可能となるため、主に病院等でのウイルス感染防止に貢献いたします。



ランドリーバッグの使用イメージ

飛沫感染防止用アクリルパーティション

アクリル板「アクリライト™」が飛沫拡散防止パーティションの素材として使用されています。アクリル板「アクリライト™」は透明度が高くガラスよりも軽いため、間仕切りなどに手軽に使え、オフィスやクリニック等の、来客の方々と近距離で接する機会の多い受付に設置するのに適しています。



デスクに設置した飛沫感染防止用パネル

COVID-19の予防をめざしたVLPワクチンの開発へ

田辺三菱製薬株式会社の子会社であるメディカゴ社が、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の予防をめざした植物由来のウイルス様粒子（VLP）ワクチンの第1相臨床試験を開始しました。皆さまに一日も早くお届けできるよう、開発を着実に推進し、喫緊の社会課題であるCOVID-19の感染予防により一層貢献してまいります。

■ 化学系3社統合による協奏・成長及び合理化で合計500億円の収益向上を実施

- ✓ 協奏・成長 フォーカスマーケットの成長戦略の確実な実行により更なる収益の向上をめざす
- ✓ 合理化 目標である150億円を達成。MTPC完全子会社化による更なる合理化を検討

① 協奏・成長 350億円 (2016～2019年度累計 200億円 (機能商品100億円、素材100億円))

自動車・航空機 (モビリティ) 140億円

環境・エネルギー 70億円

IT・エレクトロニクス・ディスプレイ 30億円

パッケージング・ラベル・フィルム 30億円

メディカル・フード・バイオ 20億円

産業基礎素材 40億円

② 3社統合を含めた合理化 150億円 (2017～2019年度累計 190億円)

関係会社統合

- MCHCグループの関係会社約760社の25%削減を目標 (2019年度までに164社 (目標の86%) 削減を実現)

生産性向上 ・働き方改革

- 生産性向上、実労働時間削減に向けた取り組みを実施
- R&D機能の強化 (Science & Innovation centerの刷新)

MTPC完全子会社化による合理化 (検討項目)

- コーポレート機能の統合、研究機能の再編等

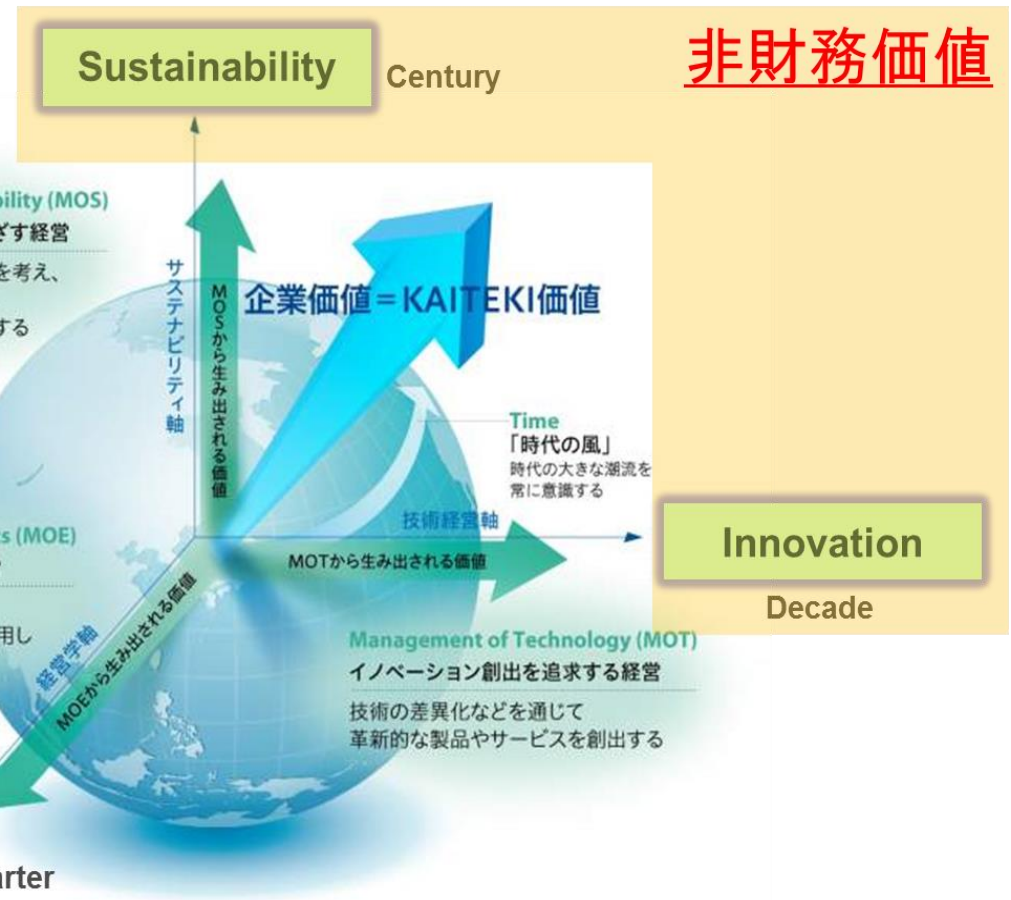
3. KAITEKI経営の深化

3. KAITEKI経営の深化

■ 私たちは、製品・サービスを通じて社会的課題を解決します。

- 資源・エネルギーの効率的利用
- 清浄な水資源の確保
- 健康維持・疾病治療への貢献
- 気候変動への対応（CO₂削減）
- 食糧・農業問題への対応
- スマート社会への対応

SDGs



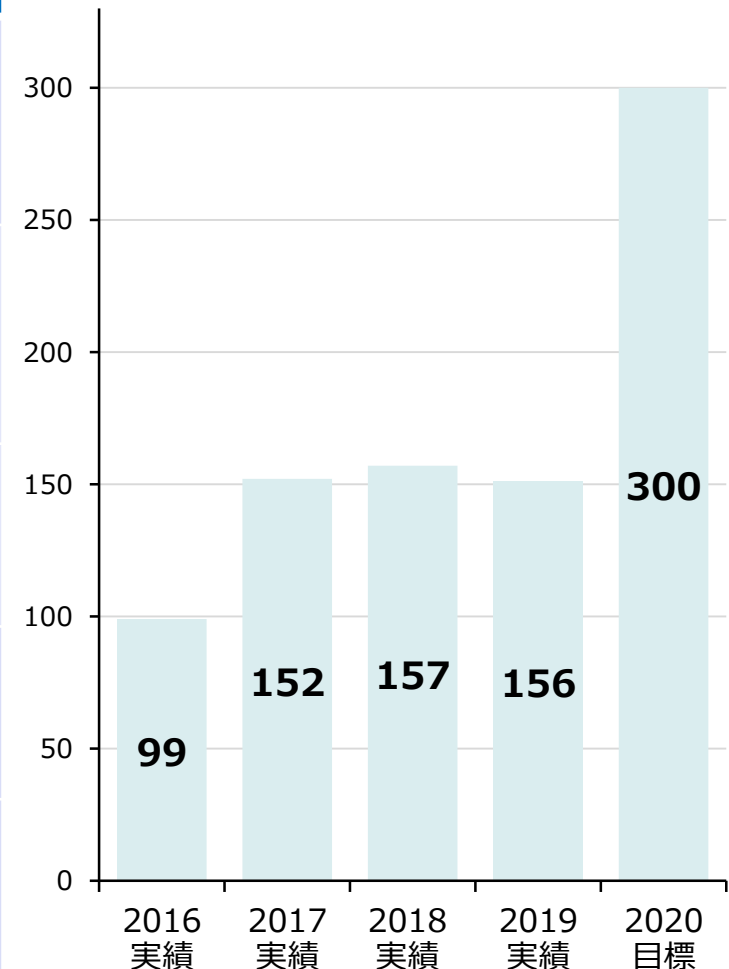
KAITEKIの実現に向けた
「KAITEKI経営」とは、
MOE、MOT、MOS
これら3つを基軸として企業価値
を高めようとする経営手法です。

3. KAITEKI経営の深化：MOS活動の進捗状況

- 社会課題解決に貢献するMOS活動の目標設定とモニタリングによって、サステナビリティの向上をめざす

MOS活動	2019年度結果	自己評価	2020年度目標
大気系環境負荷の削減	553.8 LIME／億円	☆☆	548.7 LIME／億円
製品・サービスによるGHG削減貢献	0.61億t-CO ₂ 削減	☆☆	1.5億t-CO ₂ 削減
製品・サービスによる再生可能エネルギーの創出貢献	48.9Mw 創出拡大	☆☆	50.0Mw 創出拡大
製品・サービスによる疾病予防貢献（ワクチン）	15.0ポイント 達成（指数）	☆☆☆	14ポイント達成 （指数）
Comfort製品の販売拡大	6.5%増加	-	40%増加

MOS指標の推移



■ 価値創出の源泉である「人」への戦略的投資を推進（KAITEKI健康経営）



健康支援、働き方改革、ダイバーシティ推進

- 熱意・信頼・成長をキーワードに、働きがい向上
- 労働環境の整備 テレワーク制度、サテライトオフィス導入、集中ワークゾーン設置
- 健康経営KPIの設定 いきいき活力指数、健康指数、働き方指数
- 健康サポートシステム活用 ウェラブルデバイス i² Healthcare 配布・活用
- グローバル人材育成等 Experience JAPAN、グローバル人事データベース構築



ウェアラブルデバイス i² Healthcare

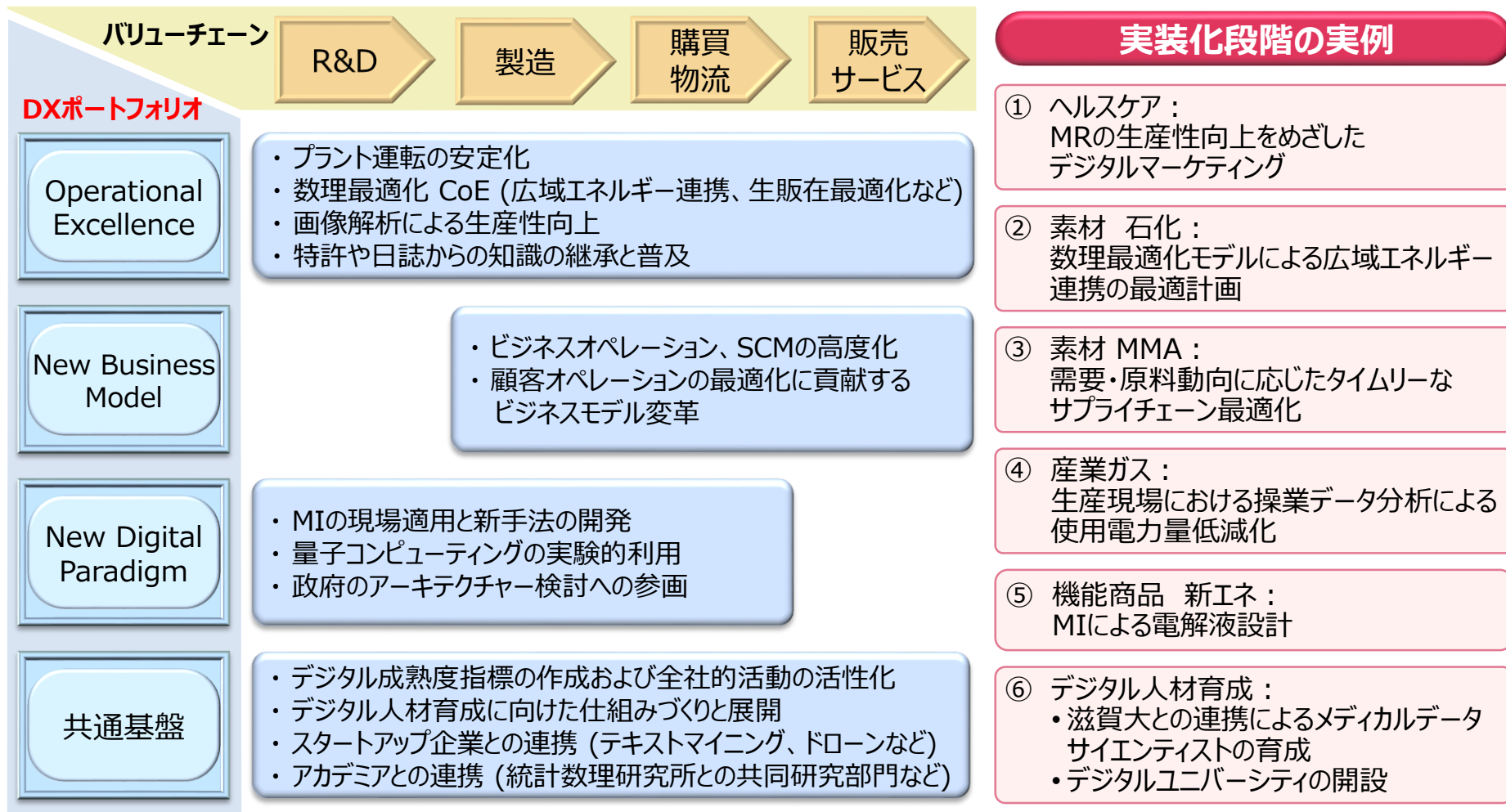
睡眠の質・心拍数等各従業員が自分の状況を把握



Experience JAPAN

外国人従業員が日本のビジネス習慣等を理解するプログラム

- DXの自律的・持続的な推進体制の整備による、全社的な活動の展開
- デジタルプロジェクト推進による現場活用の促進
- 全社共通基盤となる人材の育成、インフラ及びメソッドの充実



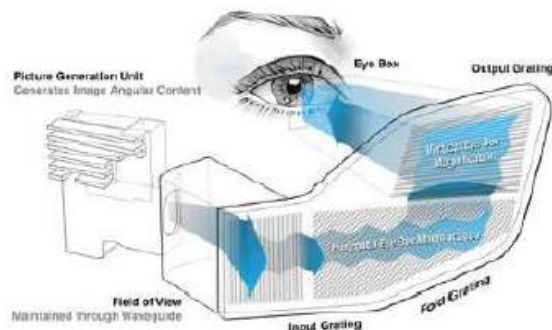
3. KAITEKI経営の深化：MOT コーポレートベンチャーキャピタルの活用

- グローバルに最先端技術や新しいビジネスモデルにアクセスし、既存の視点を超えた次世代のビジネスチャンスを創出

Diamond Edge Venturesの投資先

DigiLens Inc. (米国カリフォルニア)

AR/VRデバイスを軽量化・高性能化する画期的な導光板システムの開発



2018年10月出資

基板の樹脂化による
軽量化・安全性向上において
三菱ケミカルと協業開始

AddiFab ApS (デンマーク・ジレンジ)

今まで不可能だった複雑形状の
高性能射出成形用樹脂型を
スピーディに印刷



2019年6月出資

マテリアルにおける共同開発、
顧客の製品開発の
スピード化を支援する協業を開始

Lactips S.A.. (フランス・リヨン市)

海水でも完全に分解する、牛乳たんぱく質のカゼインを原料とした生分解性ポリマー



生分解性ポリマー

2020年4月出資



粉末洗剤の包装フィルム

世界規模のプラスチックごみ問題への
ソリューション実現

3. KAITEKI経営の深化：コーポレートガバナンス体制の強化 KAITEKI Value for Tomorrow

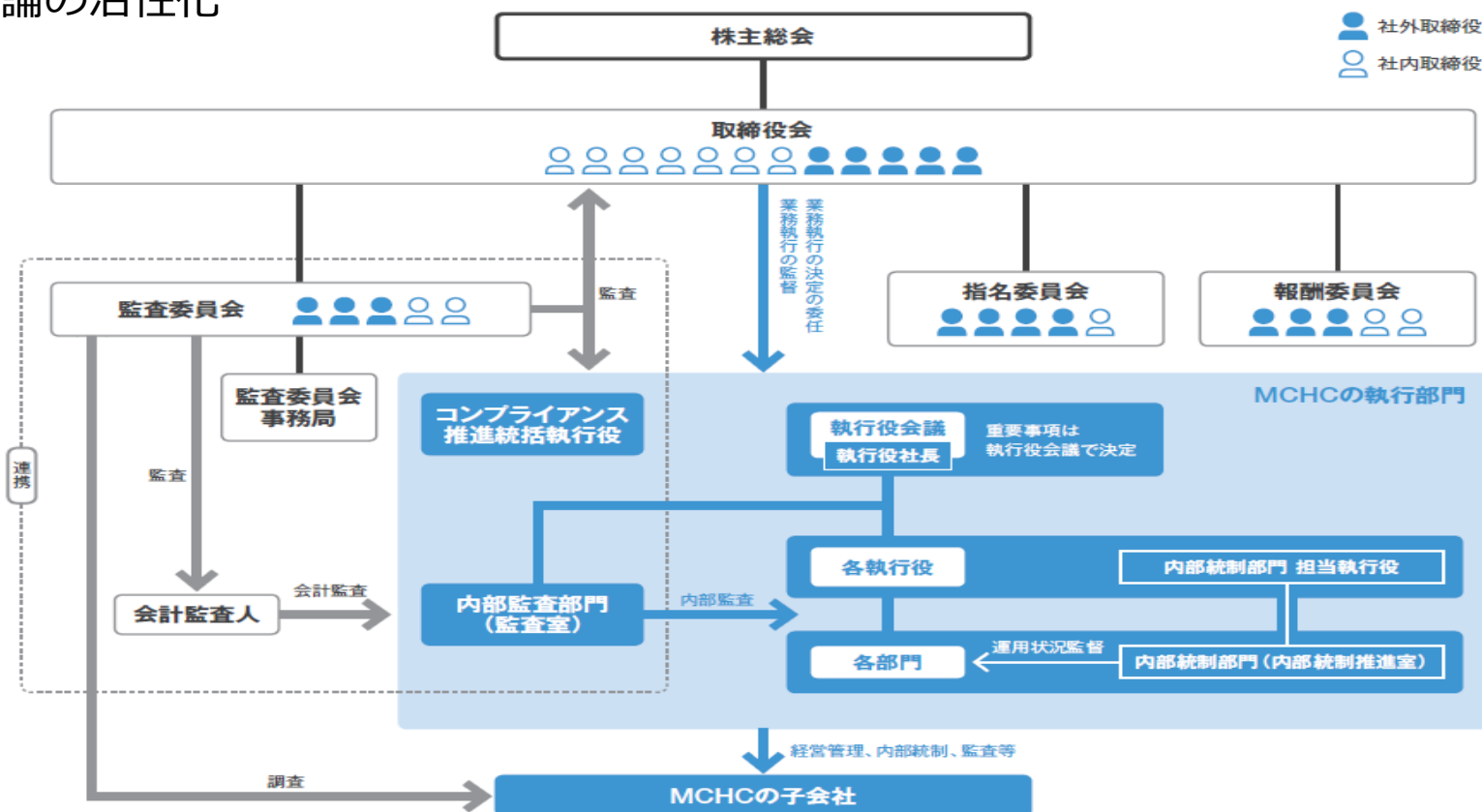
■ ガバナンス体制の強化により、ポートフォリオマネジメントの深化を図る

■ MCHCと事業会社との役割・機能の一層の明確化

執行と監督の分離（取締役会の構成変更と執行役会議の設置）

■ 取締役会の実効性の向上

取締役 に期待する分野（能力）の明確化、経営経験を有する社外取締役の充実、社外取締役による議論の活性化



■ イニシアチブや共同研究への積極的参画を通じ、サステナビリティの向上をめざす



新たな企業価値算出手法の開発をめざすイニシアチブ

「Value Balancing Alliance(VBA)」に**日本企業初**の参画

・LCA*の考え方を展開し、企業の社会的影響の金額換算手法を開発



* LCA: Life Cycle Assessment

環境インパクトの低減をめざすイニシアチブ

AEPW



**Executive
Committee メンバー**

JaIME



発起人

CLOMA



技術部会長：
当社代表執行役専務

エレンマッカーサー財団主催
サーキュラー・エコノミー100



日本の化学企業として初参加

一般社団法人
カーボンリサイクルファンド

会長：
当社取締役会長

- WEF* 第4次産業革命日本センターへの参画（2018年7月） *World Economic Forum
- 海洋プラスチック問題対応協議会への発起人参画（2018年9月）
- TCFD**提言への支持表明（2018年10月） **Task Force on Climate-related Financial Disclosures
- 経産省グリーン・オーシャン・マテリアル・アライアンスへの参加表明（2018年11月）
- 国際的なアライアンス(AEPW***、エレン・マッカーサー財団 CE100)への参加表明(2019年1月)
- Value Balancing Allianceの参画(2019年12月) ***Alliance to End Plastic Waste

※1 2018年11月時点

※2 (株)三菱ケミカルホールディングスのMSCI指数への組み入れ、およびMSCIのロゴ、トレードマーク、サービスマーク、指数名称の使用は、MSCIやその関係会社による(株)三菱ケミカルホールディングスの後援、推薦あるいはプロモーションではありません。MSCI指数はMSCIの独占的財産であり、MSCIおよびその指数の名称とロゴは、36 MSCIやその関係会社のトレードマークもしくはサービスマークです。

- ESG企業評価を通じて、KAITEKI経営の進捗をモニタリング
- DJSI 3年連続World members

Dow Jones Sustainability Indices

・3年連続World members

MEMBER OF

**Dow Jones
Sustainability Indices**



In collaboration with a RobecoSAM brand

FTSE4Good Index

・構成銘柄に10年以上
連続して選定



FTSE4Good

CDP

・リーダースhip / マネジメントのスコア
を獲得



・Climate
Change

スコア A-

・Water

スコア B

SAM Sustainability Award Bronze Class

・各産業の評価上位の中で特に優れた企業に選定



**Sustainability Award
Bronze Class 2020**

日経スマートワーク経営調査

・最上位「★★★★★」
(偏差値70以上)にランクイン

NIKKEI

Smart Work

★★★★★ 2020

Best 23

日経SDGs経営調査

・★4.5 (偏差値65以上70未満)
を取得

FTSE Blossom Japan Index



FTSE Blossom
Japan



S&P/JPX カーボン・エフィシエント指数



・GPIFが採用する4つのESG指数全てにおいて構成銘柄に選定

MSCIジャパンESG セレクト・リーダーズ指数※1



2019 Constituent
MSCI ジャパンESG
セレクト・リーダーズ指数



MSCI 日本株女性活躍指数※1



2019 Constituent
MSCI日本株
女性活躍指数 (WIN)

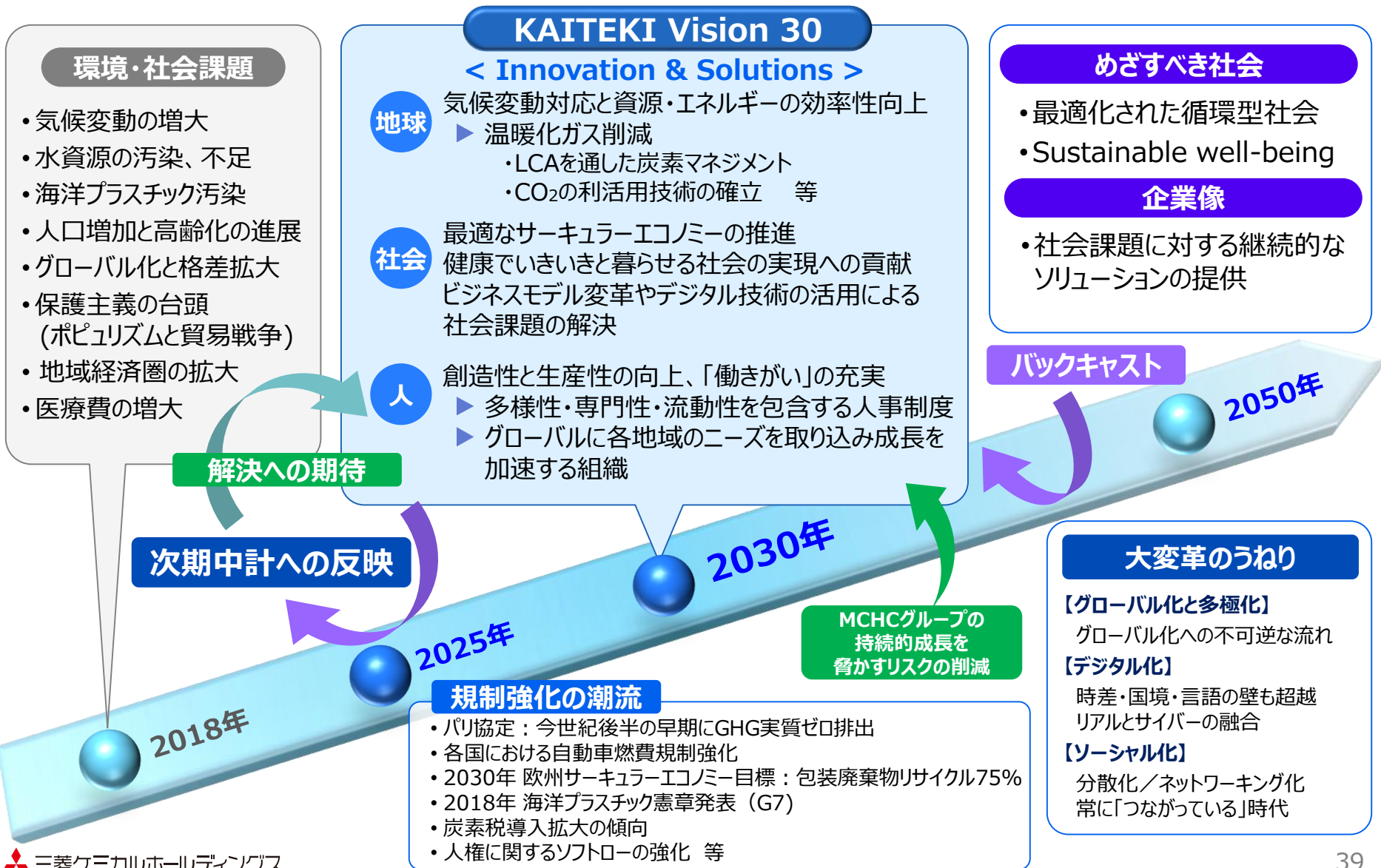


*三菱ケミカルホールディングスのMSCI指数への組み入れ、およびMSCIのロゴ、トレードマーク、サービスマーク、指数名称の使用は、MSCIやその関係会社による三菱ケミカルホールディングスの後援、推薦あるいはプロモーションではありません。MSCI指数はMSCIの独占的財産であり、MSCIおよびその指数の名称とロゴは、MSCIやその関係会社のトレードマークもしくはサービスマークです。

4. KAITEKI Vision 30

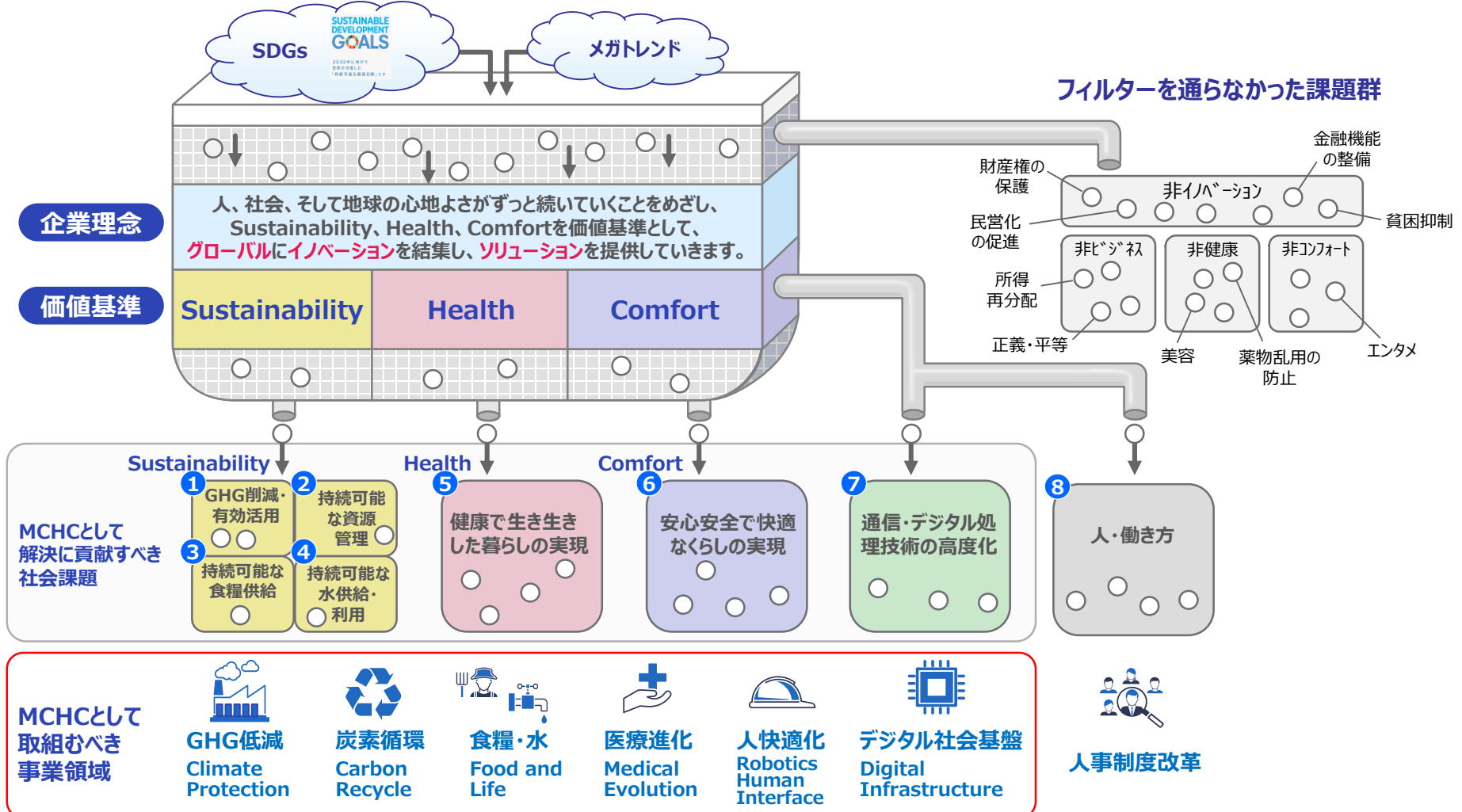
4. KAITEKI Vision 30 (KV30) : 全体像

■ 次期中期連結経営計画の骨格となる2030年の企業像の明確化



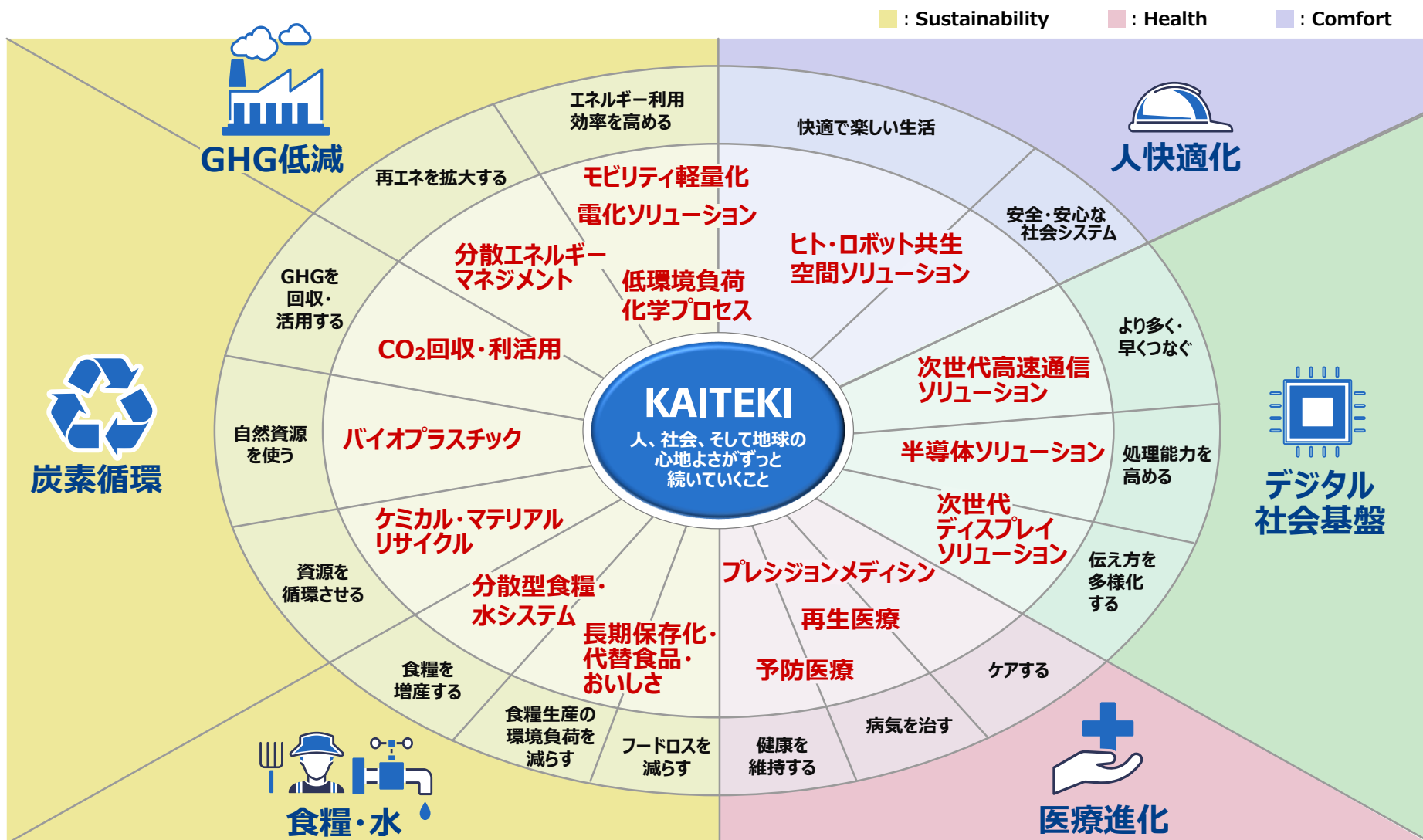
■ SDGs、メガトレンドを企業理念、価値基準に照らし合わせ、三菱ケミカルホールディングス（MCHC）として解決に貢献すべき社会課題・事業領域を特定

取組むべき社会課題抽出の考え方



4. KV30: 2030年ポートフォリオの柱

■ 社会課題の解決に貢献する「成長」事業群



4. KV30: 事業ポートフォリオ変革

■ 選定された「成長」事業を中心とした事業ポートフォリオへの変革

2018年

売上収益 3.9兆円

2030年

売上収益（目線）6.0兆円

GHG低減
炭素循環
食糧・水
デジタル社会基盤
人快適化
医療進化

25%

GHG低減

炭素循環

食糧・水

デジタル社会基盤

人快適化

医療進化

70%超

現在の社会課題が全て解決された社会



持続可能な都市

個の多様性が
活かされる社会

健康でいきいきと
暮らせる社会

資源循環型社会

食糧・水のリスクから
解放された社会

新・炭素社会

インフラとしての
デジタル技術及び
バイオ技術の発展



ご清聴ありがとうございました

株式情報(2020年3月31日現在)

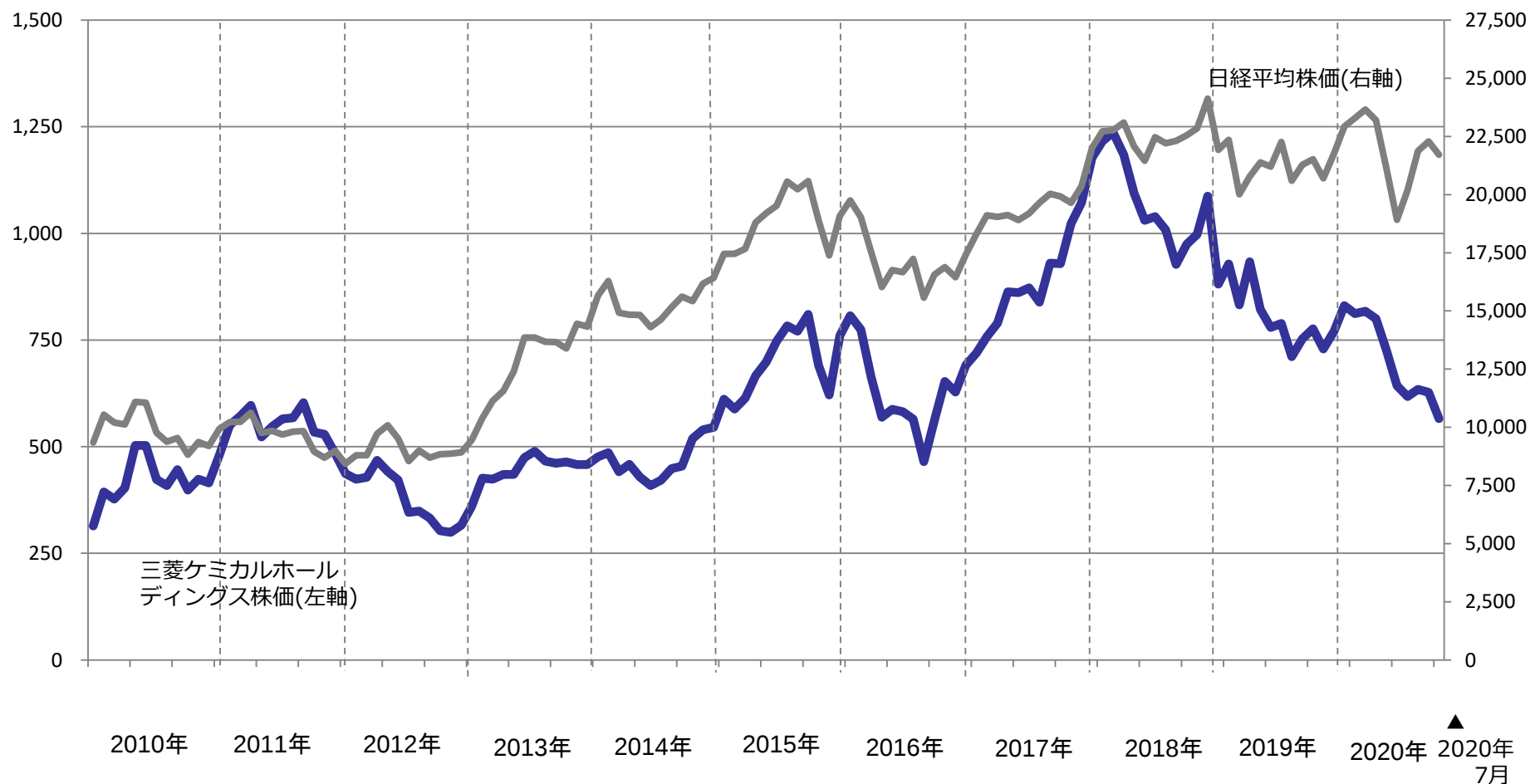
証券コード：4188(東証一部)

発行済株式数：1,506,288株

単元株式数：100株

株 価

株主数：261,886名



■ 会社資料紹介

三菱ケミカルホールディングスホームページ：http://www.mitsubishichem-hd.co.jp
の「IR・投資家情報」サイトでは、適時開示情報や決算説明資料を含む決算情報等の情報を掲載しております。

三菱ケミカルホールディングス THE KAITEKI COMPANY

→ FAQ 🔍 サイト内検索 LANGUAGE: ENGLISH 中文

グループについて ニュースリリース KAITEKI経営 IR・投資家情報 イノベーション サステナビリティ 採用情報 お問い合わせ

ホーム > IR・投資家情報 > 個人投資家の皆様へ

個人投資家の皆様へ

個人投資家の皆様へ

三菱ケミカルホールディングスをより深くご理解いただけるよう、当社グループの概要、業績、今後の戦略を中心にご紹介してまいります。

代表執行役社長 越智 仁

- IR・投資家情報
 - 社長メッセージ
 - CFOメッセージ
 - 適時開示情報
 - IRトピックス
 - 情報開示方針
 - IRカレンダー
 - 中期経営計画
 - IRライブラリー
 - 株主・社債持主

本説明会および本資料における見通しは、現時点で入手可能な情報により当社が判断したものです。実際の業績は様々なリスク要因や不確実な要素により、業績予想と大きく異なる可能性があります。

当社グループは情電・ディスプレイ関連製品、高機能成形材料、高機能ポリマー、MMA、石化製品、炭素製品、産業ガス、医薬品等、非常に多岐に亘る事業を行っており、その業績は国内外の需要、為替、ナフサ・原油等の原燃料価格や調達数量、製品市況の動向、技術革新のスピード、薬価改定、製造物責任、訴訟、法規制等によって影響を受ける可能性があります。

但し、業績に影響を及ぼす要素はこれらに限定されるものではありません。